

女子大学生の「皮膚と毛髪に関するトラブル」意識と化粧品使用実態の調査報告

A Report on a Survey of Consciousness of Skin and Hair Problems
and Cosmetics Usage of Female College Students.

野村 直
NOMURA, Tadashi

I. はじめに

著者は、本学における化学の講座で「身近な化学」というコンセプトの下、皮膚およびその付属器官の一つである毛髪をメインテーマとして、それらに関する様々な問題、そして、それら問題に関わる化粧品や美容処理の作用を、化学的視点で解説している。

この授業の一環で、個々の悩みや実態を把握し、授業内容をより受講生に身近なものとする為に、皮膚や毛髪に関するトラブルや化粧品使用の実態についてアンケートを行っている。

皮膚や毛髪は美の要素として、女子学生に留まらず、女性にとって大切に、最も興味あるものである。しかし、その反面、昨今の様々な美容関連情報を基に、より綺麗になることを追い求め、結果、皮膚や毛髪に関する色々なトラブルに悩まされているのも実情ではないだろうか。

それら皮膚や毛髪のトラブルは、使用する化粧品が肌に合わず問題が起こる場合もあるが、特に皮膚の場合は、自身の心身の状態と連動しており、その結果起こることが多い。ましてや、そのようなトラブルを薬品ではない化粧品で解決するには無理があり、自身の体調を知り、対策を立てることが重要となる。

近年は、ストレス社会と言われるほど日々の生活でストレスにさらされており、それに端を発して様々な問題が発生しやすい。特に、本学1年生のような年代は、受験を乗り越え、新しい学業の生活に入ってきた直後であり、受験というストレスを乗り越えた後にも関わらず、これまでの生活とは異なる新たな環境というストレスにさらされる時期である。

また、この年代は、化粧品の分野においては、高校までの一種の束縛から解放され、周りの色々な情報や

価値観に影響されつつ、様々な化粧品や美容的処置を試す年代でもある。一方、そのような一時的転換期の故か、彼女らの化粧品使用の実態については若い年代の一部として報告されるか^{註1)}、皮膚や毛髪のトラブルとの連携ではほとんど報告されていないのが現状である。

そこで、このような転換期の女子大学生に焦点を当て、彼女等の皮膚や毛髪に関するトラブルや化粧品使用の実態を、授業で行ったアンケートを基に、本資料で報告するものである。

II. 調査方法

1. 調査対象・調査時期・調査方法

アンケートの調査対象は、本学の杉野服飾大学の前期「化学A」と後期「化学B」、および、杉野服飾短期大学の後期「化学」の受講生である。講義受講者は1年生が主体であり、2年生や大学の3年生と4年生を含み、男子学生も若干名含まれている。その内、本資料では、主体である1年生女性、述べ386名について報告する。

アンケートの調査時期は、2017年度4月から2019年度4月までの、前期4月および後期9月である。それぞれ第1回授業オリエンテーション時の冒頭を実施した。

調査方法は、アンケート用紙を用い、任意記入とした。

2. 調査項目

アンケート調査票の例（2018年度4月版）を末尾に添付した。【質問2】および【質問3】が本資料に関する質問項目である。

Ⅲ. 調査結果

1. 「皮膚や毛髪に関するトラブル」の意識

表1に、「皮膚や毛髪に関するトラブル」の意識について、その調査結果を2017年度4月から2019年度4月までの各半期で集計した。この意識調査は、基本複数回答であるが、「1. 現在問題がある」や「2. 経験したことがある」と「3. 未経験」、「4. 不明」の回答は重複していない。

表1において、「現在問題がある」（以降、「現在」と言う）と答えた学生の割合は、各期多少のバラツキはあるが、90%前後と高い。「経験したことがある」（以降、「過去」と言う）と答えた学生の割合は、2017年度4月期の60%から期毎に増え、2019年度4月期では87%となっており、「過去」と「現在」の差が無くなってきている。

「現在」と「過去」のトラブルの内容を比較すると、いずれの期も「過去」より「現在」が増えている主な

要因は「髪の傷み」である。2018年4月で「髪の痛み」の増加は9%と最も小さいが、それ以外は16%から29%と、各期におけるトラブル増加の大きな要因となっている。

また、表1の「現在」と「過去」のトラブル率の比較で、「アレルギー」と答えた学生は「過去」から「現在」に至り増える傾向にある。但し、「アトピー性皮膚炎」や「湿疹」、「じんま疹」などもアレルギーと関連するが、これらとの合算は、寧ろ、減少している。

「アレルギー」の内容は自由記述（OA）されており、表3に示した。詳細は後ほど、「表3.「アレルギー」、「じんま疹」および「その他」トラブルに関するOAキーワードと分類」の部分で触れる。

表1における、アトピー性皮膚炎、アレルギー、湿疹、および、じんま疹の回答率を合わせて、アレルギー関連症状として表2に示した。

湿疹やじんま疹の場合、厳密には非アレルギー因子の要因もあるが、本アンケートでは詳細を知ることは

表1. 「皮膚や毛髪に関するトラブル」アンケート集計結果

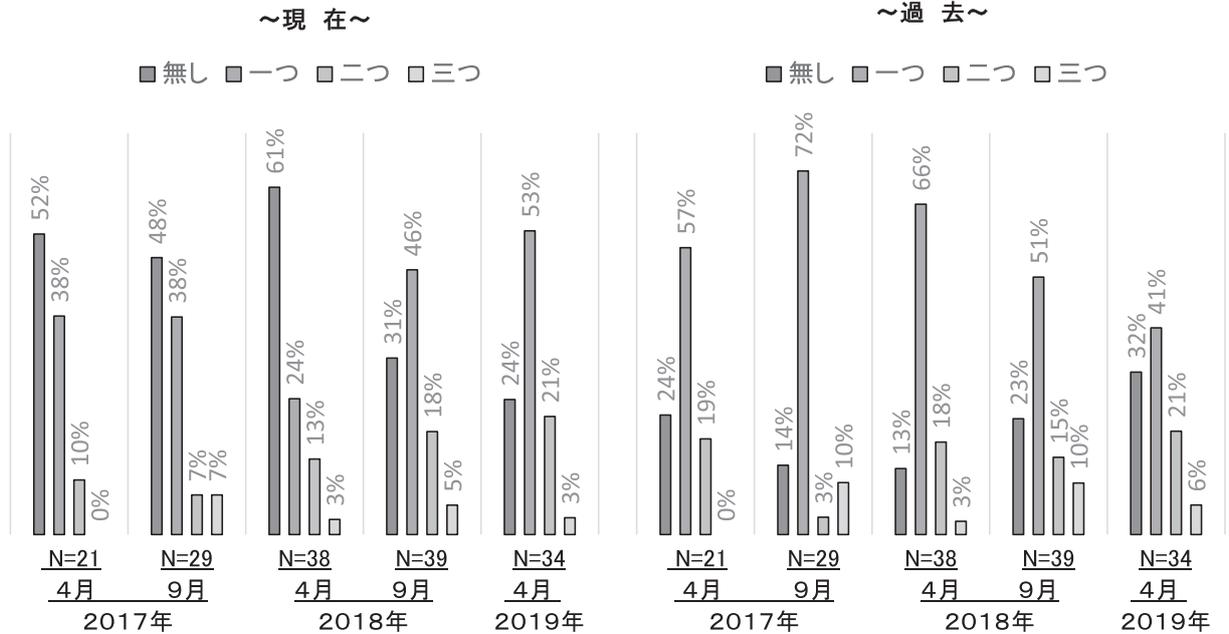
	2017年				2018年				2019年	
	4月		9月		4月		9月		4月	
アンケート総数 (N)	58		87		79		87		75	
	N	分布	N	分布	N	分布	N	分布	N	分布
1. 現在問題がある	53	91%	75	86%	71	90%	80	92%	71	95%
ニキビ	40	69%	52	60%	52	66%	56	64%	45	60%
ソバカス	11	19%	15	17%	5	6%	6	7%	12	16%
乾燥肌	22	38%	29	33%	45	57%	25	29%	29	39%
肌荒れ	24	41%	28	32%	31	39%	41	47%	18	24%
アトピー性皮膚炎	2	3%	6	7%	9	11%	9	10%	7	9%
アレルギー	5	9%	11	13%	8	10%	17	20%	19	25%
湿疹	4	7%	1	1%	2	3%	3	3%	1	1%
じんま疹	2	3%	4	5%	4	5%	9	10%	8	11%
髪の傷み	23	40%	48	55%	26	33%	33	38%	38	51%
その他	2	3%	0	0%	5	6%	3	3%	2	3%
2. 経験したことがある	35	60%	64	74%	62	78%	74	85%	65	87%
ニキビ	26	45%	50	57%	49	62%	61	70%	55	73%
ソバカス	5	9%	4	5%	4	5%	3	3%	10	13%
乾燥肌	16	28%	22	25%	38	48%	35	40%	27	36%
肌荒れ	15	26%	27	31%	28	35%	38	44%	31	41%
アトピー性皮膚炎	5	9%	12	14%	14	18%	12	14%	9	12%
アレルギー	2	3%	10	11%	7	9%	16	18%	12	16%
湿疹	7	12%	3	3%	6	8%	5	6%	4	5%
じんま疹	5	9%	9	10%	15	19%	13	15%	9	12%
髪の傷み	7	12%	23	26%	19	24%	19	22%	24	32%
その他	3	5%	1	1%	1	1%	2	2%	2	3%
3. 未経験	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%
4. 不明	1	2%	2	2%	0	0%	0	0%	1	1%

表2. アレルギー関連^{註)} 症状項目の集計

	2017年		2018年		2019年
	4月	9月	4月	9月	4月
現在のアレルギー関連症状	22%	25%	29%	44%	47%
過去のアレルギー関連症状	33%	39%	53%	53%	45%

註) アトピー性皮膚炎、アレルギー、湿疹、および、じんま疹を含む

図1. アレルギー関連症状保有者の症状重複度



できず、便宜上アレルギー関連症状の指標に含めた。

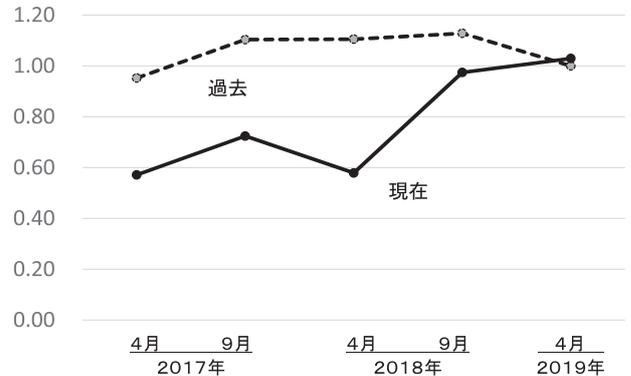
表2で、「過去」と「現在」の値はそれぞれ経年で増加しており、特に「現在」では2017年4月と2019年4月を比較すると2倍以上となっている。また、「過去」から「現在」に至る際、2017年4月から2018年9月まではアレルギー関連の割合が減少しているが、2019年4月では逆に増加している。

表1や表2は複数回答である為、個人別のアレルギー関連症状保有者の症状重複度を図1で示した。

図1では、「過去」若しくは「現在」のいずれか、或いは、両方でアレルギー関連症状を起こしたことがある学生を対象に集計した。各半期における、これら学生の各半期全体に対する割合は、2017年4月で36%、2017年9月33%、2018年4月48%、2018年9月45%、2019年4月45%であり、割合は多少上下するも増加の傾向である。

図1の～過去～(右図)を見ると、いずれの半期も症状が「一つ」と答えた割合が最も多く、4割から、多い時には7割を超えている。また、～現在～(左図)を見ると、2017年4月から2018年4月までは、現在に至ると症状「無し」の割合が最も多くなり、「過去」との比較から、総体的にアレルギー関連症状が緩和し

図2. アレルギー関連症状保有者一人当たりの平均アレルギー関連症状保有数



ている傾向が見られる。しかし、その緩和するパターンは、2018年9月と2019年4月では見られず、過去の症状重複度の分布が現在もほぼ継続している。

図2に、図1を基にしたアレルギー関連症状保有者の一人当たりの平均アレルギー症状保有数を示した。

図2において、「過去」の一人当たりの平均アレルギー症状保有数は1.0から1.1とほぼ一定であるのに対し、「現在」のそれは2017年4月から経時で増加し、2018年9月と2019年4月には「過去」と「現在」のレベルがほぼ同じとであることが分かる。図1で見られた、

2018年9月と2019年4月でのアレルギー関連症状重複度の緩和パターンの消失が、一人当りの平均アレルギー症状保有数で見ても分かる。

因みに、「過去」から「現在」までアレルギー関連症状が継続していると答えた学生の割合は、2017年4月が24%、同年9月が38%、2018年4月と9月が26%と46%、そして、2019年4月が44%であり、症状が継続する学生が増加している傾向である。

2. 「アレルギー」、「じんま疹」および「その他」トラブルに関する自由記述

表3に、「アレルギー」、「じんま疹」および「その他」トラブルの原因に関する自由記述(OA)のキーワードを抜粋した。この表を見ると、生活の様々な場面や因子が原因と意識され、上がっていることが分かる。

前項で述べたアレルギー関連症状が継続している、若しくは、「現在」において新たに発生した学生等のOAについて2019年4月を分析すると、表3に見られるような色々な因子が上げられているが、ほぼ半数の人が花粉を上げている。

表3でにおいて、アレルギーやじんま疹などの症状と記述された種々の原因は、本人の自己診断であり不正確な場合も見受けられる。そこで、この表3で上がっているOAのキーワードを大まかに分類し、アレルギー関連症状を引き起こす原因として分析した。

図3にその分類に従い5半期全体を統計した。

図3から、アレルギー関連症状の原因として多く意識されているのが花粉であり、次にペットとして飼われている犬や猫の動物、ハウスダストやカビ、ダニなどの生活環境、そして、卵やエビ、イカ、カニの甲殻類などの食物であることが分かる。

図4では、表3で分類した項目の半期毎の経時変化を示した。この図から、花粉や動物、生活環境などが経年で増えてきており、加えて、2017年9月を除き、「過去」よりも「現在」が増加する傾向であることが分かる。

図3. 「アレルギー」、「じんま疹」および「その他」トラブルのOAキーワード分類の総計

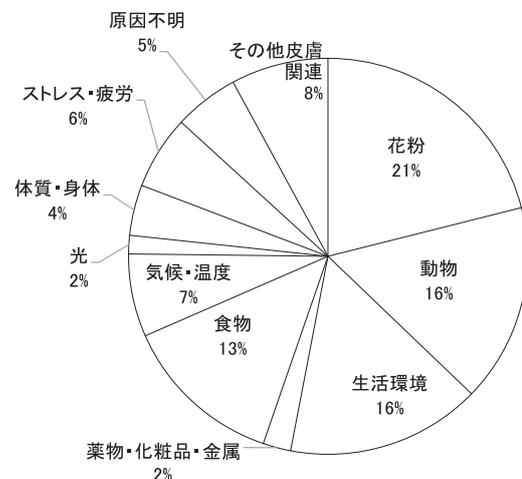


表3. 「アレルギー」、「じんま疹」および「その他」トラブルに関するOAキーワードと分類

質問番号	回答項目	記述されたキーワード	分類
⑥	アレルギー	花粉 (による肌荒れ)、スギ、ヒノキ、ブタクサ	花粉
		動物、ネコ、犬	動物
		ハウスダスト、ホコリ、ダニ、カビ、環境	生活環境
		食物、たまご、サーモン、青魚、エビ、アニサキス、果物、リンゴ、牛乳、大豆系食品、ピーナッツ	食物
		アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、喘息、アレルギー、赤ら顔でいろんなトラブル、汗、お風呂で柑橘系刺激、温泉	体質・身体
		日光、紫外線	光
		薬、ヘアカラーで痛い、メンソレータムでかぶれ	薬物・化粧品
⑧	じんま疹	ストレス、疲れ、アレルギー	ストレス・疲労
		ネコ、犬	動物
		食物、食事、肉、そば、お寿司、たまご、チーズ、チョコレート、エビ、イカ、カニ、里芋、モモ	食物
		温度変化、寒暖差、寒冷、冷風、お風呂、服の摩擦	温度
		生活リズムの乱れ、ダニ、雑菌、毛虫、草	生活環境
		金属、化粧品、甘草	薬、金属、化粧品
		原因不明	不明
⑩	その他	頭皮、頭皮アレルギー、頭皮の湿疹、頭皮の痒み、フケ、脂漏性乾燥肌、皮脂過剰分泌、テカリ、シミ、イボ、汗疱、リンゴ病、手を洗うと皮膚が剥がれる、毛穴の汚れ、唇の荒れ、肘・膝の黒ずみ	皮膚関連の悩み

3. 「髪の毛の傷み」に関する自由記述

表4に、「髪の毛の傷み」に関し記述されたOAのキーワードを一覧表にした。そして、そのキーワードを基に三つに分類した。また、図5に、「髪の毛の痛み」に関する分類の5半期全体を統計した。

髪の毛の痛みに関するOAで、表現する言葉は色々上がるが、髪の毛の状態、髪質、そして、髪に施した化学処理など三つに分類できる。

髪の毛の状態が「髪の毛の傷み」を認知する最たるものであり、これに関するOAが多くなるのは必然であろう。

同じように髪の毛の状態は良くはないのだろうが、人によって、その原因となっている髪質や化学処理が意識されている。

図6には、分類された三つの半期毎の経時変化を示した。

各期で多少の変化はあるが、総じて髪の毛の状態が認知されている。各半期の4月における「過去」と「現在」を比較すると、2018年9月を除き、「過去」は髪の毛の状態を主に認知し、「現在」に至ると施した化学処理が髪の毛の傷みの原因として認知される傾向である。

図4. 「アレルギー」、「じんま疹」および「その他」トラブルのOAキーワード分類—経時変化—

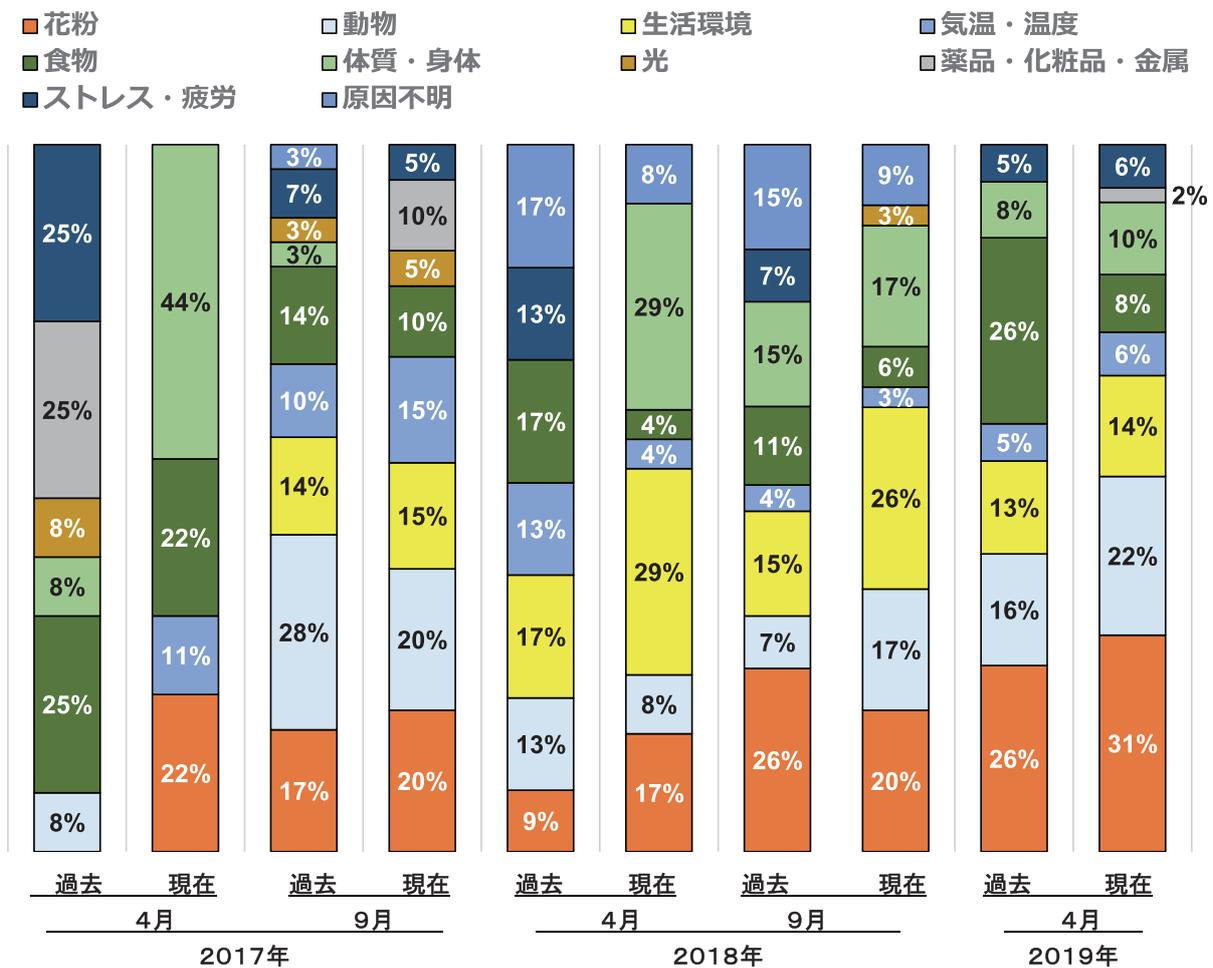


表4. 「髪の毛の傷み」に関するOAキーワードと分類

質問番号	回答項目	記述されたキーワード	分類
⑨	髪の毛の傷み	枝毛、切れ毛、ちぎれる、パサつき、パサパサ、水分がない、乾燥、静電気、クシ通りが悪い、ゴワゴワ、ガサガサ、キシキシ、ギシギシ、髪が硬くなった、キューティクル損傷、傷み、毛先の傷み	髪の毛の状態
		くせ毛、縮毛、天然パーマ、絡まりやすい、伸びない、すぐ抜ける、うねり、まとまらない、アホ毛、広がる	髪質
		ブリーチしてるから、塩素、ヘアカラーしてるから、変色、パーマしてるから、縮毛矯正、ヘアアイロン、熱	化学処理

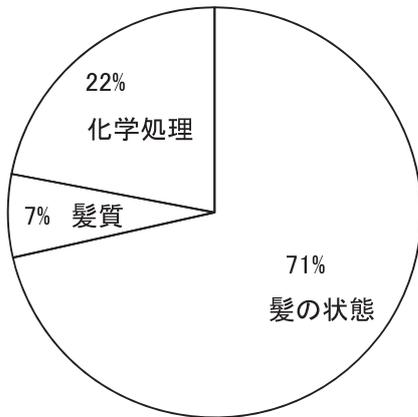
4. 「皮膚や毛髪に関するトラブル」への対処法

図7に、皮膚や毛髪のトラブルへの対処法を経時で示した。

皮膚に関し、「過去」と「現在」の比較において、どの期も「過去」は通院とそれに伴う処方薬での対処が市販薬での対処より多いが、「現在」に至ると市販薬での対応が多くなる。症状が軽減することにより市販薬での対応が増えたのであれば良いが、通院する時間が確保できず、取り敢えず市販薬での対応となっていれば問題である。

また、「現在」における通院や処方薬による対処は、

図5. 「髪の毛の傷み」OAキーワード分類の統計



経年で増加している。先に述べたアレルギー関連症状重複度の変化パターンや一人当たりの平均アレルギー症状保有数の経時変化と連動した傾向と考えられる。

髪の毛のトラブルに関しては、唯一の対策として美容師への相談が上げられる。いずれの期も「過去」より「現在」の方が美容師の割合が増えることは、図6で触れた化学処理による「髪の毛の傷み」が増えることと連動していると考えてよいだろう。とは言え、授業で髪の毛の痛みや原因を説明する際、髪の毛の痛みが進行し、改善できていないケースが目立つのが気がかりである。

5. 化粧品の使用実態

表5に、スキンケア関連の主なカテゴリーとメイクアップ製品の使用実態を示した。スキンケア関連製品は剤型別に、そして、メイクアップ製品は種類別に示した。

表5において、洗顔料は平均使用種類が経時で0.7から1.4の間であり、ほぼ一人当たり一つの剤型を使用している。主な剤型としては、クリーム状、泡状、液状の剤型である。剤型や銘柄の決定者や購買者が誰かによるが、美容情報やTV宣伝による肌への優しさ訴求に影響され、クリーム状や泡状が使われていることは否めないであろう。一方、固形石鹸も、未だ1割以

図6. 「髪の毛の痛み」OAキーワード分類－経時変化－

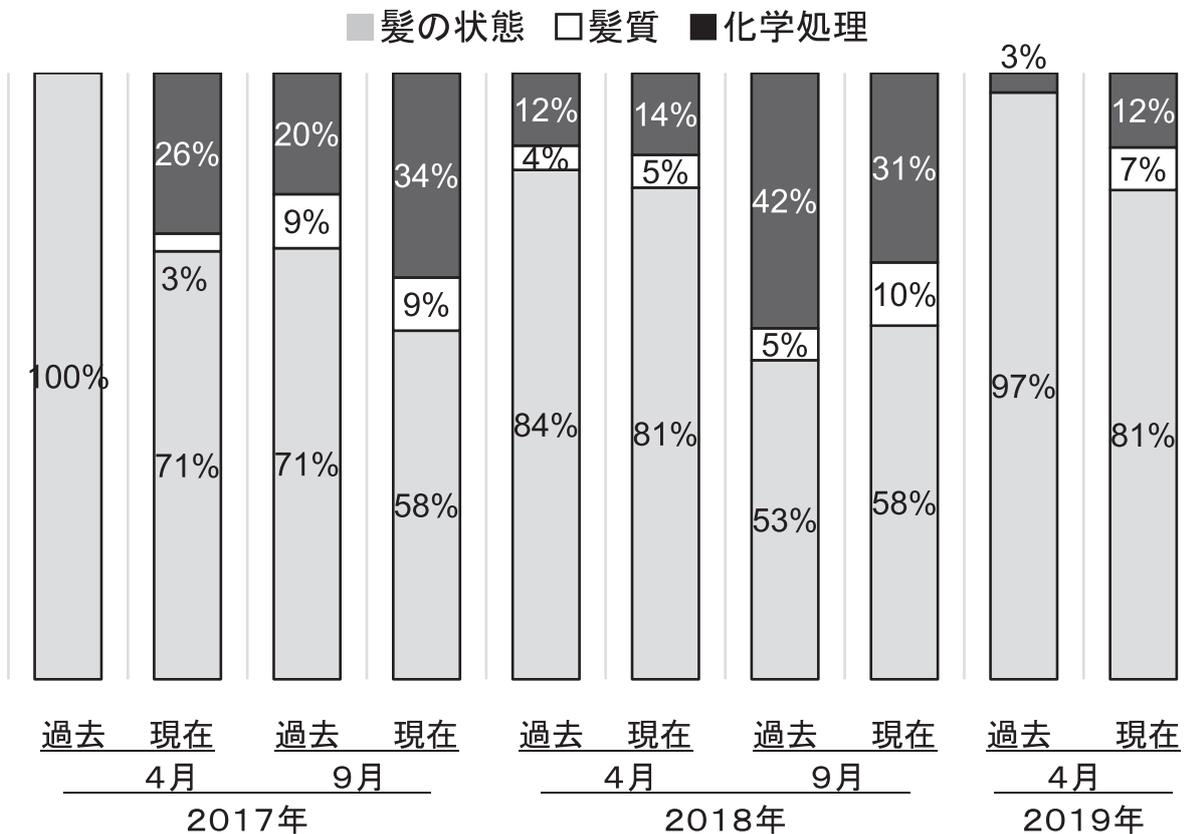
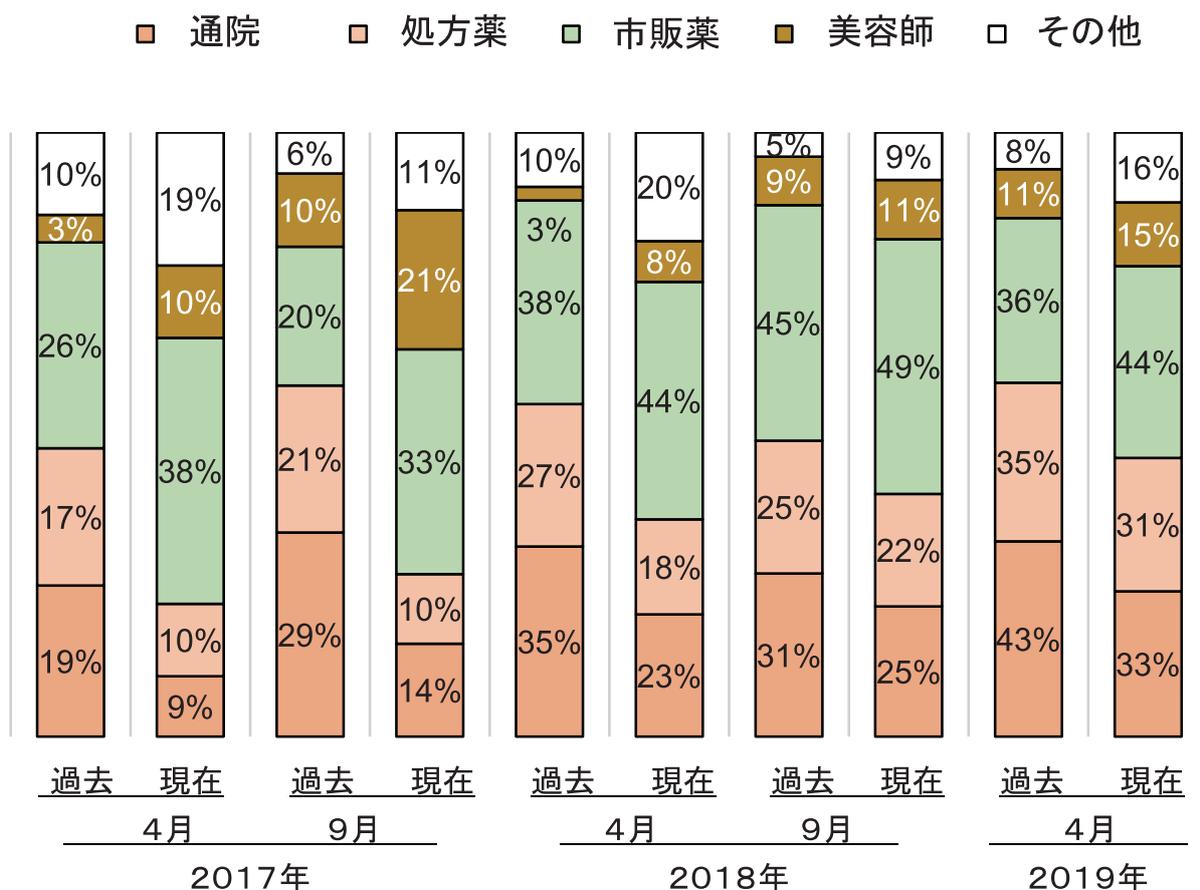


図7. 皮膚や毛髪トラブルへの対処法



上が使用している。肌へのマイルド感は乏しいが、洗い上がりのスッキリ、サッパリ感への根強さを感じられる。

全身洗剤も、ほぼ1剤型／人の使用である。この場合は、洗顔料と違い、常に液状が5割を超えており、固形石鹸の使用率も洗顔料よりは高い。

スキンケア製品は、平均使用が2種類であり、化粧水が9割弱、乳液がほぼ6割前後と、この二つの剤型が主に使用されている。その次、2割前後が美容液と薬用クリームである。

日焼け止め製品については、非使用者が3割前後いる。

紫外線は日焼け（火傷）や、累積すればシミや深いシワなど美容的な影響をもたらすことは一般的によく知られている。しかし、影響はもっと深刻で、国連環境計画（UNEP）の1989年の報告^{註2)}によれば、環境破壊の影響により大気圏のオゾン量が減少した結果、地表に到達する紫外線量が増加し、皮膚がんや白内障の発症が増加している。

紫外線防止は日焼け止め化粧品だけでは完璧ではないが、少なくとも幼い頃から日焼け止め製品を使う習慣をつけるべきと著者は考える。目には、紫外線カッ

ト効果の高いサングラスが必須であろう。

メイクアップ製品は、一人6種類ほど使用している。顔全体や目の周り、唇、爪と色々な商品を使っている。

メイクアップをすることは肌に負担をかける、若しくは、面倒なので出来れば止めたいという学生もいるが、社会的身だしなみという、謂わば、圧力に屈しているようだ。欧米では、目の周り以外はメイクしない人も多い^{註3)}。日本の女性も自らの選択によりメイクアップをするしないを決めても良いと考えるが、化粧慣れしている周りの影響もあり、この現状は今後も変わりなさそうだ。

6. 頭髪関連製品の使用実態

表6に、ヘアケア関連製品の使用実態を示した。

シャンプーやリンス・コンディショナー、ヘアトリートメントなどのインバス製品では、一人当たりの平均使用種類の数が2.4から2.5とほぼ一定である。

シャンプーとリンス・コンディショナーのペア使用が多く、人によりヘアトリートメントを追加する、若しくは、リンス・コンディショナーの代わりにヘアトリートメントというパターンである。

表5. スキンケア関連製品とメイクアップ製品の使用実態～現在～

洗顔料	2017年4月		2017年9月		2018年4月		2018年9月		2019年4月	
N=	58		87		79		87		75	
	回答数	使用率								
固形石鹸	12	21%	15	19%	14	14%	11	13%	9	12%
クリーム状	7	12%	7	9%	48	48%	54	62%	46	61%
液状	3	5%	47	59%	9	9%	3	3%	6	8%
泡状	13	22%	8	10%	34	34%	23	26%	23	31%
その他	4	7%	0	0%	5	5%	2	2%	5	7%
回答総数/平均使用種類	39	0.7	77	0.9	110	1.4	107	1.1	89	1.2

スキンケア	2017年4月		2017年9月		2018年4月		2018年9月		2019年4月	
N=	58		87		79		87		75	
	回答数	使用率								
薬用クリーム	13	22%	15	17%	12	15%	8	9%	14	19%
汎用クリーム	4	7%	3	3%	8	10%	5	6%	9	12%
乳液	36	62%	44	51%	47	59%	49	56%	47	63%
化粧水	50	86%	74	85%	68	86%	75	86%	64	85%
美容液	17	29%	7	8%	15	19%	21	24%	13	17%
その他	0	0%	0	0%	6	8%	4	5%	6	8%
回答総数/平均使用種類	120	2.1	143	1.6	156	2.0	162	1.9	153	2.0

メイクアップ	2017年4月		2017年9月		2018年4月		2018年9月		2019年4月	
N=	58		87		79		87		75	
	回答数	使用率								
ファンデーション	44	76%	69	79%	68	86%	68	78%	64	85%
白粉	14	24%	32	37%	19	24%	23	26%	34	45%
口紅	45	78%	80	92%	69	87%	74	85%	69	92%
リップグロス	36	62%	40	46%	33	42%	38	44%	28	37%
アイブロー	40	69%	64	74%	53	67%	52	60%	52	69%
アイライナー	39	67%	60	69%	45	57%	59	68%	52	69%
マスカラ	44	76%	65	75%	57	72%	60	69%	50	67%
アイシャドウ	47	81%	75	86%	64	81%	74	85%	69	92%
ネイルカラー	22	38%	41	47%	24	30%	26	30%	24	32%
その他	12	21%	8	9%	7	9%	5	6%	11	15%
非使用	1	2%	1	1%	1	1%	2	2%	0	0%
回答総数/平均使用種類	343	5.9	534	6.1	439	5.6	479	5.5	453	6.0

全身洗浄料	2017年4月		2017年9月		2018年4月		2018年9月		2019年4月	
N=	58		87		79		87		75	
	回答数	使用率								
固形石鹸	13	22%	10	11%	15	19%	13	15%	14	19%
クリーム状	6	10%	13	15%	7	9%	11	13%	10	13%
液状	31	53%	54	62%	47	59%	54	62%	45	60%
泡状	11	19%	7	8%	8	10%	9	10%	6	8%
その他	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
回答総数/平均使用種類	61	1.1	84	1.0	77	1.0	99	1.0	75	1.0

日焼止め	2017年4月		2017年9月		2018年4月		2018年9月		2019年4月	
N=	58		87		79		87		75	
	回答数	使用率								
日焼け止めクリーム	36	62%	57	66%	47	59%	55	63%	50	67%
美白剤	2	3%	1	1%	4	5%	1	1%	4	5%
その他	5	9%	0	0%	1	1%	2	2%	1	1%
非使用	15	26%	25	29%	26	33%	27	31%	23	31%
回答総数/平均使用種類	43	0.7	58	0.7	52	0.7	58	0.7	55	0.7

ヘアスタイリング剤の平均使用種類はほぼ1.0である。ヘアスプレーを使用するか、ワックスを使用するか、若しくは、何も使わないかというパターンである。

表7に、ヘアカラーやヘアブリーチ、パーマメントウェーブ剤の施術実態を示した。

ヘアカラーの施術者は、各期において過半数を超えており、6割強から8割である。そのほとんどは美容院で染めている。

ヘアブリーチの施術者は2割強から5割程度と、ヘアカラーよりは少ない。施術場所は、やはり美容院が主である。

ヘアカラーとヘアブリーチを併用している学生は、2割弱から最近では5割を超えるほどになっている。

これは、俗称“マニパニ”の流行によるところが大きいと考えられる。マニックパニックは、鮮やかな色が出せることが特徴で、特に本学では、マニックパニックで染めている学生をよく見かける。

マニックパニックは、本来、ヘアカラーなど医薬部外品に分類され、毛髪内で化学反応をすることで発色する染毛剤ではない。化粧品に分類される染毛料であり、元々色を持っている塩基性染料を物理的に髪に吸着させることで染色する。その為、ヘアダメージも無く、より安全である。但し、日本人の黒髪など暗い髪

色に対しては単独で鮮やかな色を出せないことから、ハイブリーチと言われる強いヘアブリーチ剤で前処理することが前提になっており、これがヘアダメージの原因となる。

授業で説明していると、医薬部外品であり、髪を傷めるヘアカラーやヘアブリーチと、マニックパニックなどの化粧品・染毛料の違いを混乱しているようだが、教わる機会もないのでは無理もない。美容院で施術の際に、髪への影響を含め正しく説明して頂ければと願う。

パーマメントウェーブの施術者は多くて14%（2018年4月）で、その後2019年4月には5%と著しく減少している。

ヘアカラーやヘアブリーチとパーマメントウェーブを併用している学生も若干見られる。化学処理が累積することにより、かなりのヘアダメージが考えられ、しっかりケアをする必要がある。

7. 香り製品の使用実態

表8に、香り関連の製品使用実態を示した。

香水が3割から4割の使用率が高い。一方、非使用も5割近くおり、定着しているとはいえない。

入浴習慣が定着し、清潔を好むお国柄は、今の若者も継続しているのだろう。但し、授業での感心は高

表6. ヘアケア関連製品の使用実態～現在～

インバス剤 ^{註)}	2017年4月		2017年9月		2018年4月		2018年9月		2019年4月	
N=	58		87		79		87		75	
	回答数	使用率								
シャンプー	54	93%	84	97%	77	97%	86	99%	75	100%
リンス・コンディショナー	45	78%	67	77%	67	85%	72	83%	61	81%
トリートメント	36	62%	51	59%	40	51%	50	57%	44	59%
その他	6	10%	6	7%	4	5%	8	9%	8	11%
回答総数／平均使用種類	141	2.4	208	2.4	188	2.4	216	2.5	188	2.5

註) インバス剤；シャンプー、リンス、若しくはコンディショナー、および、トリートメント

ヘアスタイリング剤	2017年4月		2017年9月		2018年4月		2018年9月		2019年4月	
N=	58		87		79		87		75	
	回答数	使用率								
ヘアスプレー	29	50%	41	47%	34	43%	23	26%	38	51%
ムース（泡状）	2	3%	4	5%	8	10%	6	7%	3	4%
ワックス	14	24%	26	30%	20	25%	15	17%	19	25%
ジェル	2	3%	10	11%	4	5%	4	5%	5	7%
クリーム	2	3%	8	9%	3	4%	7	8%	8	11%
その他	12	21%	9	10%	6	8%	8	9%	14	19%
非使用	12	21%	21	24%	21	27%	32	37%	13	17%
回答総数／平均使用種類	61	1.1	98	1.1	75	0.9	63	0.7	87	1.2

表7. ヘアカラー、ヘアブリーチ、及び、パーマメントウェーブ剤の施術実態～現在～

ヘアカラー	2017年4月		2017年9月		2018年4月		2018年9月		2019年4月	
N=	58		87		79		87		75	
	回答数	使用率								
ヘアカラーしている	39	67%	72	83%	51	65%	63	72%	59	79%
美容院のみ	27	47%	43	49%	46	58%	50	57%	60	80%
自宅のみ	10	17%	12	14%	7	9%	12	14%	4	5%
両方	1	2%	18	21%	9	11%	10	11%	4	5%
ヘアブリーチしている	14	24%	38	44%	27	34%	43	49%	35	47%
美容院のみ	9	16%	34	39%	15	19%	42	48%	40	53%
自宅のみ	2	3%	3	3%	5	6%	5	6%	0	0%
両方	1	2%	5	6%	1	1%	1	1%	0	0%
カラーとブリーチ併用	11	19%	37	43%	25	32%	42	48%	39	52%
カラーもブリーチもしていない	16	28%	12	14%	25	32%	20	23%	16	21%

パーマメントウェーブ	2017年4月		2017年9月		2018年4月		2018年9月		2019年4月	
N=	58		87		79		87		75	
	回答数	使用率								
パーマしている	6	10%	12	14%	7	9%	6	7%	4	5%
美容院のみ	6	10%	9	10%	7	9%	6	7%	3	4%
自宅のみ	0	0%	2	2%	0	0%	0	0%	1	1%
両方	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
カラー and/or ブリーチと併用	4	7%	12	14%	5	6%	5	6%	3	4%
パーマしていない	52	90%	75	86%	72	91%	81	93%	71	95%

表8. 香り製品の使用実態～現在～

香り	2017年4月		2017年9月		2018年4月		2018年9月		2019年4月	
N=	58		87		79		87		75	
	回答数	使用率								
香水	20	34%	33	38%	26	33%	36	41%	30	40%
オーデコロン	5	9%	10	11%	6	8%	14	16%	7	9%
その他	6	10%	2	2%	6	8%	3	3%	1	1%
非使用	27	47%	40	46%	39	49%	37	43%	39	52%
回答総数/平均使用種類	31	0.5	45	0.5	38	0.5	53	0.6	38	0.5

く、ポテンシャルは感じられる。

8. 使用ブランドの純粋想起

8-1. スキンケア関連ブランド

表9に、2019年4月を例として、純粋想起されたスキンケア関連ブランドのリストを示した。

想起されたブランドにおいて、ブランド名そのものでなく、特徴を上げている場合もあるがそのまま記述した。また、同じブランド名でも、英語名やカタカナ記載が人により異なっていたが、その場合は書かれた頻度の多い方を優先させた。

表9では、想起されたブランドを四つのカテゴリーの合計想起回数が多い順に並べた。四つのカテゴリー

で合計64のブランドが、述べ194回想起されており、概算で一人当たり2.6ブランドの想起という計算になる。

また、2017年9月から半期毎で見ていくと、2019年4月では、過去に想起されたうち79のブランドが想起されていない。そのような生き残りの激しいカテゴリーだが、トップ5のブランドは2017年4月からほとんど定位置を確保し、強いブランド想起力を保っている。

8-2. メイクアップと香りのブランド

表10に、メイクアップと香りに関するブランドの純粋想起結果を示した。

メイクアップと香りは、製品カテゴリーとして関連

表9. 使用ブランドの純粹想起～スキンケア関連～

2019年4月 N=75

スキンケア関連ブランド	洗顔料	全身洗淨料	スキンケア	日焼け止め	累積想起回数
ブランド想起回数	51	44	70	29	194
一人当たりの想起数	0.7	0.6	0.9	0.4	2.6
ビオレ	15	14	0	4	33
ニベア	2	4	3	7	16
ハトムギ	1	1	12	0	14
ダヴ	2	8	0	0	10
無印良品	0	0	10	0	10
専科	6	0	0	0	6
豆乳イソフラボン	2	1	3	0	6
アネッサ	0	0	0	6	6
オルビス	2	0	3	0	5
コーセー	2	0	1	2	5
キュレル	1	0	2	2	5
資生堂	1	0	4	0	5
牛乳石鹸	0	5	0	0	5
ちふれ	1	0	3	0	4
アスタリフト	1	0	1	1	3
Lux	0	3	0	0	3
ヴァセリン	0	1	2	0	3
ソフティモ	2	0	0	0	2
DHC	1	0	1	0	2
SK-II	1	0	1	0	2
皮膚科推奨	1	0	1	0	2
ハダカラ	0	2	0	0	2
白潤	0	0	1	1	2
アクアレーベル	0	0	2	0	2
アリー	0	0	0	2	2

註) 累積想起回数1回のブランドを以下に列挙した。
【洗顔料】ロゼット、うる潤、極水、LUSH、ファンケル、肌ラボ、墨のやつ、イニスフリー、Skin Life、Sabon
【全身洗淨料】ナイーブ、セバメド、ミノン、馬油のやつ、シャボン玉石鹸
【スキンケア】ナチュリエ、ジュジュアクアモイスト、イソフラボン、極潤、オバジ、アルージェ、ピーソフテン、メラノCC、ヒルドイド、クリニーク、ミュゼブラチナム、ソフィーナ、LuLuLun、アクネスラボ、100キン、キール、サボリーノ、オルフェス、お米、処方薬
【日焼け止め】コスメデコルテ、ヘイミッシュ、バラソール

性はないが、ブランドの視点では両カテゴリーは共通する部分があり、複数カテゴリーを包含するブランドが多い。

メイクアップでは50ブランドが、述べ187回想起され、一人当たり2.5ブランド想起している。メイクアップだけで一人2.5ブランド想起するというのは、高いブランド想起力であり、表5の製品使用実態で、一人当たり約6種類を使用していることも合わせて、このカテゴリーが学生等の興味の的であることを伺わせる。

一方、香りは、57ブランドが述べ28回想起されている。一人当たり0.4ブランド想起と低い水準である。香り製品の使用実態同様、未だ開拓の余地はありそうだ。

メイクと香りの両方でよく想起されるブランドが、ジルスチュアートやディオール、シャネルなど、ファッションにも強く、メイクアップも含め幅広い製品カテゴリー展開をしている欧米ブランドである。その中に Shiro など日系メーカーも食い込んでいる。

因みに、メイクアップと香りを合わせて66ブランドが想起されたが、2017年4月から半期毎見てくると、2019年4月では過去想起されたうち72ブランドが想起されていない。また、メイクアップのトップ2である CANMAKE や KATE は2017年4月からトップを維持しており、学生に根強い人気がある。

表10. 使用ブランドの純粋想起～メイクアップと香り～

2019年4月 N=75

ブランド (メイク+香り)	メイクアップ	香り	累積想起回数
ブランド想起回数	187	28	215
一人当たりの想起回数	2.5	0.4	2.9
CANMAKE	26	0	26
KATE	12	0	12
セザンヌ	12	0	12
エチュードハウス	11	1	12
ジルスチュアート	6	5	11
エクセル	9	0	9
MAC	6	1	7
シャネル	5	1	6
ディオール	3	3	6
イブサンローラン	5	0	5
メイベリン	5	0	5
ちふれ	5	0	5
ADDICTION	5	0	5
マジョリカマジョルカ	4	1	5
VISEE	4	0	4
レブロン	4	0	4
Shiro	1	3	4
RMK	3	0	3
ヒロインメイク	3	0	3
ポール&ジョー	3	0	3
オルビス	3	0	3
コーセー	3	0	3
ファッション	3	0	3
韓国	3	0	3
フローフシ	3	0	3
ミーシャ	3	0	3
ジョーマローン	0	3	3
インテグレート	2	0	2
マキアージュ	2	0	2
3CE	2	0	2
クラランス	2	0	2
シュウウエムラ	2	0	2
NARS	2	0	2
アナスイ	1	1	2
ZARA	0	2	2

註) 累積想起回数1回のブランドを以下に列挙した。

【メイクアップ】ジバンシィ、無印良品、リンメル、資生堂、イブサ、ルナソル、WHOME、アイムミミ、ペリペラ、チャコット、
 コスメデコルテ、エステローダー、トミモリ、ニベア、メンソレータム、メディア、レディット、ピアー、マヴェラ、
 キャンディドール、カイリージェンナー、ヘイミッシュ、Loveライナー、

【香り】Chloe、ランバン、トムフォード、ザセム、オハナマハロ、ビクトリアンシークレット

8-3. ヘアケア関連のブランド

表11に、ヘアケア関連ブランドの純粋想起結果を示した。

製品の使用実態で分かるように、ヘアカラー、ヘア

ブリーチ、パーマネントウェーブ剤などは美容院施術が主であり、美容院で使われるバックバー（美容師が使用する）ブランドは知らされず、想起しづらい。特に、パーマネントウェーブ剤のブランド想起は皆無で

表11. 使用ブランドの純粹想起～ヘアケア関連～

2019年4月 N=75

ブランド (ヘア関連)	インバス	ヘアスタイリング	ヘアカラー	累積想起回数
ブランド想起回数	72	46	3	121
一人当りの想起回数	1.0	0.6	0.0	1.6
ケープ	0	16	0	16
パンテーン	7	0	0	7
Lux	7	0	0	7
ボタニスト	7	0	0	7
N.	3	3	0	6
マシェリ	2	4	0	6
プロダクト	0	6	0	6
美容院の物	3	2	0	5
ヘアオイル	0	5	0	5
一髪	4	0	0	4
エッセンシャル	3	0	0	3
& Honey	2	1	0	3
ダヴ	2	0	0	2
ヒマワリ	2	0	0	2
ダイアン	2	0	0	2
ロレアル	2	0	0	2
カラーシャンプー	2	0	0	2
資生堂	2	0	0	2
ジェミールフラン	1	1	0	2
ミルボン	0	2	0	2

註) 累積想起回数1回のブランドを以下に列挙した。
【インバス】ジェレーム、メリット、DHC、TSUBAKI、ボタニカル、アムウェイ、オージュア、LUSH、ミノン、エルデ、ヘアレシビ、ハーバルエッセンス、ウェルダ、クラシエ、フィーノ、コーサー、Tokio、ハニーチェ、LA SANA、ダイアナ、ラヴィラヴィータ
【ヘアスタイリング】イオホームケア、サラ、モモリ、ニゼル、Shima、外国品
【ヘアカラー】ビューティーラボ、アッシュ、エブリカラートリートメント

あった。

ヘアカラー剤も含め、ヘアケア関連で想起されたのは50ブランド、述べ121回の想起回数で、一人当たり1.6のブランド想起であった。

ヘアスプレーの使用率は高くても5割程度であったが、ヘアスプレーのブランドであるケープのブランド想起は、並み居るインバス製品のブランドを抑え1位であり、2017年9月からずっとトップ3以内に位置している。

ヘアケア関連で想起されたブランド数は50あり、2017年9月から半期毎見てくると、過去想起されたち55ブランドが想起されなくなっていた。

IV. まとめ

本学の化学講座受講生である1年生女子を対象に、2017年から2019年の各前期（4月）と後期（9月）の年2回に分けて行った「皮膚と毛髪に関するトラブル」

の意識と化粧品使用の実態調査結果を報告した。

本報告から、高校を卒業し本学へ入学した学生の、入学前後の皮膚や毛髪のトラブルの意識や化粧品使用の実態が分かった。

アレルギーに関連する症状を持っている学生、及び、経験したことがある学生を対象に、「過去」と「現在」の症状の有無や増減を比べると、「現在」の方が「過去」よりアレルギーに関連する症状が改善する傾向があった。しかし、最近の二半期ではその改善傾向が認められず、「過去」の高いレベルを維持したままであることは留意すべき点と考えられる。

髪のトラブルに関しては、高校卒業後にヘアカラーやヘアブリーチを施術する学生が多く、それに伴うヘアダメージの増加が意識されていることが分かった。

化粧品の使用実態においては、メイクアップに興味が行きがちである実態が見えた。著者は、夏だけに限らず、一年中を通して増加している紫外線への対策をしっかり行い、将来起こり得る重篤な疾病を防ぐ必要

を強く感じる。

2017年から2019年の5半期における述べ386名の調査結果であるが、調査対象が年々入れ替わることもあり、明確な調査結果を得るには未だ十分な量ではないだろう。今後も継続し、年齢的な転換期を迎え、心身共に変わっていくこの世代の姿とその変遷に迫り、理解し、対策を立てることにより、無駄なトラブルを防ぎ、より円滑に転換期を乗り越える材料にできればと願う。

註

- 1) 例えば、ポーラ文化研究所 HP
<https://www.cosmetic-culture.po-holdings.co.jp/>
「女性の化粧行動・意識に関する実態調査」
- 2) United Nations Environmental Programme,
“Environmental Effects Panel Report, 1989”
- 3) 例えば、資生堂ファンデ100問100答
<https://foundation100.shiseido.co.jp/answer/q35.html>、データ出典元：Euromonitor Beauty Survey 2017

<アンケート調査票の例>

2018 (H30) 年度前期/化学A 第1回授業/アンケート調査

受講生の皆さんへ

化学の授業を進める際の参考とするために、以下の質問にご回答をお願いします。

【質問1】あなたは何故「化学A」を受講しようと思われましたか？

【質問2】あなたはこれまで、皮膚や毛髪に関するトラブルを経験したことがありますか？該当する全ての項目や番号に○をして下さい。

1. 現在問題がある。

・それはどんなトラブルですか？

① ニキビ ②ソバカス ③乾燥肌 ④肌荒れ ⑤アトピー性皮膚炎

⑥アレルギー⇒何に対し？ _____

⑦湿疹 ⑧蕁麻疹（じんましん）⇒何に対し？ _____

⑨髪の傷み⇒どのような？ _____

⑩その他⇒どのような？ _____

・どのように対応されていますか？

①通院 ②処方薬 ③市販薬

④美容師に相談 ⑤その他⇒どのような？ _____

2. 経験したことがある。

・それはどんなトラブルでしたか？

① ニキビ ②ソバカス ③乾燥肌 ④肌荒れ ⑤アトピー性皮膚炎

⑥アレルギー⇒何に対し？ _____

⑦湿疹 ⑧蕁麻疹（じんましん）⇒何に対し？ _____

⑨髪の傷み⇒どのような？ _____

⑩その他⇒どのような？ _____

・どのように対応されましたか？

① 通院 ②処方薬 ③市販薬

④美容師に相談 ⑤その他⇒どのような？ _____

3. 経験したことがない。

4. 分からない。

【質問3】現在あなたがお使いの化粧品は？該当する項目や番号に○をして下さい。（複数回答可）

・洗顔料 (①固形石鹸 ②クリーム状 ③液状 ④泡状 ⑤その他)

現在使用している主なブランド名は？ _____

・全身洗浄料 (①固形石鹸 ②クリーム状 ③液状 ④泡状 ⑤その他)

現在使用している主なブランド名は？ _____

・スキンケア (①薬用クリーム ②汎用クリーム ③乳液 ④化粧水 ⑤美容液 ⑥その他)

現在使用している主なブランド名は？ _____

・メイクアップ (①ファンデーション ②白粉 ③口紅 ④リップグロス

⑤アイブロー ⑥アイライナー ⑦マスカラー ⑧アイシャドー

⑨ネイルカラー ⑩その他 ⑪使用していない)

現在使用している主なブランド名は？ _____

・日焼け止め (①日焼け止めクリーム ②美白剤 ③その他 ④使用していない)

現在使用している主なブランド名は？ _____

・ヘアケア (①シャンプー ②リンス・コンディショナー ③トリートメント ④その他)

現在使用している主なブランド名は？ _____

・ヘアカラー (①使用している⇒どちらですか？美容院、自宅 ③ヘアカラーしていない

②ブリーチを使用⇒どちらですか？美容院、自宅 ④ブリーチしていない)

現在、自宅で使用している主な（ヘアカラー、ブリーチの）ブランド名は？ _____

・パーマントウェー (①使用している⇒どちらですか？美容院、自宅 ②使用していない)

・スタイリング剤 (①ヘアスプレー ②ムース（泡状） ③ワックス ④ジェル ⑤クリーム

⑥その他 ⑦何も使用していない)

現在使用している主なブランド名は？ _____

・香り (①香水 ②オーデコロン ③その他 ④何も使用していない)

現在使用している主なブランド名は？ _____

【質問4】（授業終了後にご記入下さい。）

「今後の授業への要望」、および、「今日の第1回授業についてのコメント」などあれば、ご記入下さい。

以上、ありがとうございました。